

2012年度立命館大学校友会 東日本大震災復興支援事業 東北応援ツアーレポート

昨年6月、宮城県山元町坂元と気仙沼市を訪問した。山元町では、見えない遠い水辺まで広がるなだらかな土地に何もなくてところどころに丘のようながれきの集積。人影も見えず、近くで見ると家屋の土台だけ残り、土砂に埋まった生活用具。

気仙沼では、大きな漁船が打ち上げられ、それを吊り上げる巨大なクレーンが作業中。保冷できなくなった魚の腐敗臭が漂い、通った道は満潮で通行止め。

時間が過ぎたこともあってか、会津はでは家屋の被害はわかりにくい。原発の汚染から避難されての転入者、原発汚染で職を失われた住民、風評被害で作物・製品が売れなくなったり、観光者の減少で痛手を受けておられる住民などいずれも経済的な被害をはじめ様々な困難状態にあられる模様ながら、リンゴの味、温泉のぬくもり、育つ野菜の旨味、会津人の根性にはなんの変わりもなかった。食べに、温まりに、交わりに出かけよう。

小林保一 S44.3 文学部哲学科心理学専攻卒